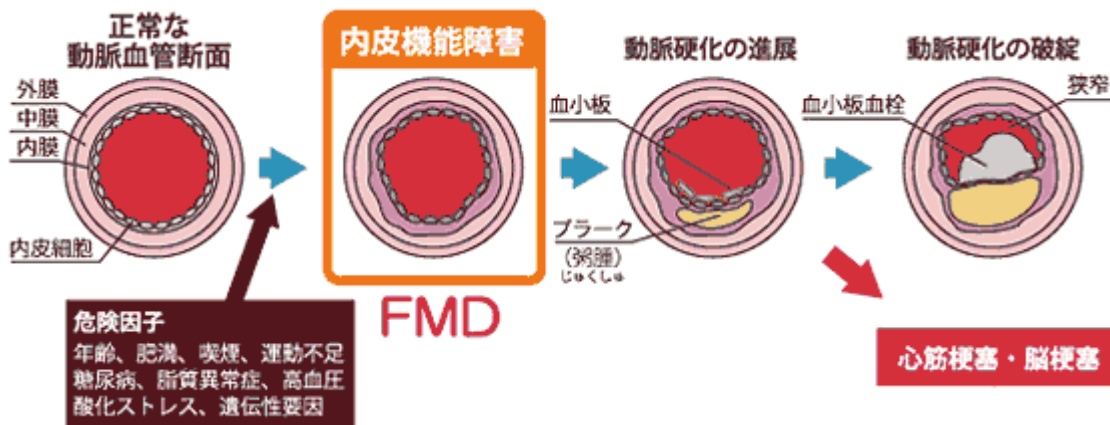


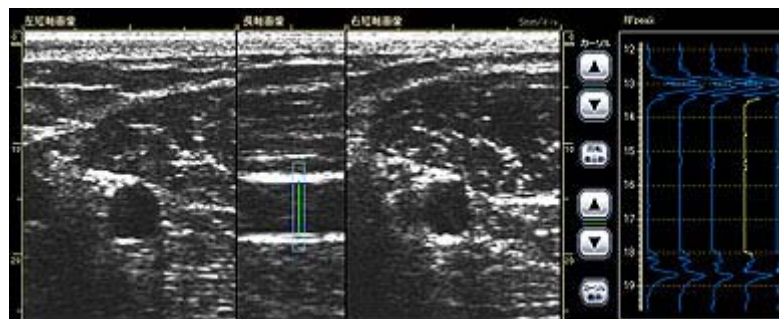
血管内皮機能を診る FMD検査のご案内

白庭病院では、動脈硬化を引き起こす血管内皮機能障害を早期に発見できるFMD（血流依存性血管拡張反応）検査（保険適用可）を内科にて始めました。

近年、食生活や生活リズムなどの生活環境の大きな変化に伴い、その患者数の急激な増加で注目されている脂質異常症、糖尿病、高血圧などの生活習慣病は、動脈硬化と密接な関連にあり、サイレントキラーと呼ばれるように知らず知らずのうちに進行し、心筋梗塞、脳梗塞の原因ともなる恐ろしい病気です。しかしながら最近の研究で、動脈硬化は、血管壁の硬化に先立ち、血管内皮細胞の機能障害が先行するということがわかってきました。この度導入しましたFMD検査は初期段階から動脈硬化の評価が可能です。



※上図の血管内の様子が、3つの超音波画像（下図）から適切な位置で血管像が計測され、リアルタイムの血管径計測が可能となります。



※初期の血管内皮機能障害は、薬物療法、運動療法、食事療法、禁煙などによって改善すると言われており、定期的にFMD検査を受けられますことをお勧めします。検査は腕を測定し、20分程度の測定時間が必要です。